

4月 京都も桜満開です



ワシントンポトマック川畔桜

桜の下を
帰ってきたのね
花びら一枚
傘に
のせて (森本いく子)

五行歌での桜の歌、数多の秀歌がありますが、私が真っ先に思い出すのはこのお歌です。このお歌は、その後いくつものリスペクト歌を生みました。私の記憶に新しいところでは「猫の背バージョン」があります。(犬バージョン、車バージョン、ランドセルバージョンなんかもありましたっけ…) 和歌の世界でもそうですが、「本歌取り」されるということは名歌の証なのでありましょう。いつかこんな桜歌を一首書けたらと願う次第です。森本いく子さん、かつてはきんきサロンにも顔を見せていただき、京都駅前のカラオケ店ご一緒しました。今もお元気で暮らしてしょうね。懐かしいです。

歌会当日、歌会会場(ウイングス京都)前の御射山公園も桜が満開でした。お天気も良くて歌会后、参加者でお花見を楽しむことが出来ました。満足気な参加メンバーの皆様の写真を添付いたします。

(前列左から:いぶやん、きったん、城雅代、霧香。後列左から:青藍、HIKARIKO、黒田節子、玉虫、平村幸子、小倉はじめ)

アメリカのワシントン DC、ポトマック河畔の桜は、日本以外での桜の名所としてとても有

名ですが、この桜は、1912年、日米友好の平和の証として、日本から贈られ植樹されたものです。その後第二次世界大戦があり、送った側の日本の桜(荒川堤の桜だったそうですが…)は空襲で塵芥に帰りました。この荒川堤の桜を復活させるために、戦後ポトマック河畔から荒川堤に、桜が里帰りして送られ、現在の荒川堤の桜の景観になっているとのこと、平和が一番ですね。

さて、今回の1席は同点で2首。城さん歌、「故人と訪れた中宮寺の記憶が、山吹の季節とともに静かに甦る。哀惜と美しさが溶け合い、奥行きのある追悼歌として心に残る」と、参加者しんみり。もう1首は青藍歌、「実景が象徴か判じ難いが、どんな状況でも踊り続ける姿に迫力がある。老いを超えて生き抜こうとする意志が強く響く」と、それぞれ共感を集めました。

二席は霧香歌「読みやすいはずの黒い文字が揺れるのは、涙だけでなく心の動揺ゆえだ。親友への想いが文字を越えてあふれ、静かな哀しみが深く伝わってくる」。好評価コメント多数。

三席はきったん歌。春の山のおしゃれは/止まりません/木の芽の薄いヴェールで/誇らしく/歌まで唄って笑ってる。一行目、二行目の表現がユニークで好評価集まりました。このようにゲスト歌人の皆さまが上位独占で、新鮮な表現に、触発され、大いに刺激を受けたい一日となりました。

(いぶ記)

第 325 回きんきサロン

- 1
喋らなくてもいい
顔 姿を見れば
あなたの生き様が
表(あ)現(らわ)れている
桜の薄ピンクの中に
HIKARIKO
- 2
「中宮寺の菩薩様に
会いに行かないか」
山吹の花咲く頃
天上からあなたの声が
聞こえて来るような・
城雅代 1席同
- 3
親友(とも)の旅立ちを
知らせるメールが届く
ゴシック体の黒い文字
ゆらゆら
揺らいで見えない
霧香 2席
- 4
春の山のおしゅれは
止まりません
木の芽の薄いヴェールで
誇らしく
歌まで唄って笑ってる
きったん 3席
- 5
明日ガソリン 26 円上がります
メールがきた
仕入原価は昔の価格
なんでそうなるの
罰を与えられるべき商売人がいる
小倉はじめ
- 6
遠目にも
優雅な
その桜は
威風堂々
龍馬もひれ伏す
玉虫
- 7
音楽が止み
照明が落ちて
ステップは止まない
倒れるまで
ダンスは続く
青藍 1席同
- 8
不器用な
優しさ
教えていない仕草
貴方の
息子だ
平村幸子 次点

- 9
手作りの
切干し大根
使い勝手よく
好みに切って
カラカラに
黒田節子
- 10
満開・・・
後は散る運命ならば
あなたとのペアで
散りたい
サクランボのごとく
いぶやん
- 11
今年の七夕歌会
びわこテラスから
見下ろす絶景
東から野武士も
天下を取りにやってくる
西村康則

■ (参加者：10名)

いぶやん・小倉はじめ・霧香・黒田節子・きったん・城雅代・青藍・玉虫・HIKARIKO・平村幸子 (歌のみ) 西村康則

■ 次月 5 月きんきサロン

2026.5.3 (日) 13:30 ウイングス京都
連休中ですが、お出かけお待ちしております。

■ 編集長の一言



今号は、桜の話題なので、編集長在住の地域の桜の情報を。大津市の中でも北部地域にあたり気候的には少し寒い地域で、桜の開花も遅めです。近くにある和邇公園 4 月 9 日現在の写真で、やっと満開かなという現状です。

天気が好ければ出かけて 1 周 1,500 歩の外周を 2 周するというお気に入りのウォーキングコースです。左側に写っている小川は、比良山系から琵琶湖に注ぐ和邇川ですが、一応一級河川です。休みの日は、子ども達や家族連れで賑わいますが、平日は、犬の散歩や、高齢者の散歩などが見られる程度で、車もなく安心して歩けるので、山や木を見ながらの散歩は至福の時間です。いい歌ができればいいのですが、これは別のようです。じゃーまた来月！（はじめ記）